

## 平成 28 年度 第 1 回古賀市複合文化施設運営協議会会議録

会議名称：平成 28 年度第 1 回古賀市複合文化施設運営協議会

日 時：平成 28 年 4 月 26 日(火)15 時～17 時

場 所：古賀市役所第一庁舎 4 階第 3 委員会室

主な議題：①平成 27 年度事業報告について

②平成 28 年度事業計画について

③その他

傍 聴 者：0 名

出 席 者：加藤 典子委員 今橋 省三委員 橋本 由里委員 松田 信一郎委員

草野 三保子委員 長野 素子委員 鈴木 章委員 松下 和正委員

河村 正彦委員 以上 9 名

欠 席 者：0 名

事 務 局：9 名

配布資料：①レジュメ

②平成 27 年度図書館事業報告

③平成 27 年度歴史資料館事業報告

④平成 28 年度図書館事業計画

⑤平成 28 年度歴史資料館事業計画

⑥平成 28 年度文化財事業計画

⑦サンフレアこが入り口通路変更について

会議内容：以下のとおり

### 1 開会の言葉

(事務局)：皆さんこんにちは。本日は大変お忙しい中お集まりいただきまことにありがとうございます。文化課の課長を拝命いたしました星野と申します。どうぞよろしくお願いたします。本年度より課の名称がサンフレアこがから文化課となりました。歴史資料館係と言っておりました係も文化振興係と係の名称も変更になっております。私ども事務局はこの度人事異動もございました。後で紹介という形になるかと思いますが、委員の皆様方には昨年より引き続き本日御出席を賜っております。本日の協議会が平成 28 年度第 1 回目でございますが、皆様ご承知のとおり、本日が最後の記念すべき協議会となりますので、どうぞ活発なご意見をちょうだいできればと思っております。それでは、本日の協議会、どうぞよろしくお願いたします。(委員紹介)

### 2 教育長あいさつ

(事務局)：改めましてこんにちは。皆様におかれましては、歴史資料館、図書館、二つの運営に対しまして、いろんなご意見等々ありがとうございます。課長があいさつをいたしましたけれども、生涯学習センターの完成に伴い、それを予定いたしまして教育部内の機構改革も行いまして、文化課を新たにつくることになりました。その初代の課長ということになり、それに合わせて各係とも今御説明があったとおりでございます。

生涯学習センターの建設もほぼ5月中に終わると私どものほうにも報告は上がってきております。6月から7月にかけて現在の研修棟からの移転作業等がありまして、8月2日には新たにオープンということで、中央公民館、研修棟にかわるものを交流館というふうに名づけ、図書館、歴史資料館、この4つの全体的な名称を古賀市生涯学習センターとして全てがつながります。今まで別個の建物であったものが真ん中に増築した部分で全てつながることになります。これまで中央公民館のみをリーパスプラザと呼んでおりましたけれども、一体化したものの、四つの館を含めた生涯学習センターの愛称をリーパスプラザこがと名づけまして新たなスタートを切るようになっております。これに伴いまして、これまで図書館、歴史資料館の複合文化施設でありましたサンフレアこがが廃止されることになりました。よって今日最後というふうにありましたけれども、古賀市複合文化施設運営協議会の使命は終わることになります。これまで委員の皆様におかれましては、古賀市の教育学術及び文化の発展に向けてさまざまなご意見をいただいたことに感謝申し上げます。今後、新たな協議会等もできるようでございますので、それぞれの協議会にまた御賛同いただきまして、古賀の文化芸術の発展のために、あるいは学術教育発展のために御尽力いただければと思っております。私も最後まで協議の場におると思っておりましたけれども、この後3時半から古賀高等学校組合の教育委員会の会議が従前より計画されておりましたので、協議に入る前にご無礼ではございますけれども、ぬけさせていただきますことを御了解願いたいというふうに思っております。今日は最後の会議よろしくお願いをいたします。

(事務局) : 今もお話にありましたが、教育長におかれましてはこの後の公務の都合により退席いたします。

### 3 会長あいさつ

(事務局) : 続きまして、松田会長よりごあいさつをお願いいたします。

(会長) : 皆さんこんにちは。先ほどご案内がありましたとおり、平成28年度第1回の協議会ということでございますけれども、私どもにとりましては、最後の協議会となっております。これまでの私どもの思いやこれからの思いを込めて建設的な意見を提言いただきたいと思っておりますのでよろしくお願いをいたします。

(事務局) : 協議に入る前に4月の人事異動により、教育部長、文化課課長、歴史資料館館長、図書館係長が代わりましたので、協議会の事務局より紹介させていただきます。(事務局職員紹介) ここから協議進行につきましては、会長、副会長にお願いしたいと思います。

### 4 協議等

#### (1) 平成27年度事業報告について

(会長) : では早速協議に入ります。事務局より議案の説明をお願いします。

(事務局) : 平成27年度事業実績について図書館係から報告をさせていただきます。4月23日の子ども読書の日、子ども読書週間に合わせまして、4月25日26日に子ども読書の日イベントを実施しました。子どもの読書活動推進につながるよう内容を考え、昨年度は2日続けて開催しております。古賀子どもの本の交流会さんには子ども読書の日おはなし会をしていただきました。また、お楽しみ袋貸出しをしました。図書館員が

おすすめの本を3冊セットにして、赤ちゃん、小さい子、小学1年生から3年生、小学4年から6年生、ティーンズ用を各10セット、全部で50袋準備し、用意した本はすべて貸出しされております。初めての取り組みで、ぬいぐるみおとまり会を実施しました。お子さんが大切にしているぬいぐるみと一緒に来ていただきまして、一緒におはなし会を聞いて、その後ぬいぐるみだけ図書館にお泊りして、夜の図書館を探検します。その様子を写真にとりまして、次の日にお渡しするものです。15組の申し込みがあり、喜んでいただきました。つくってあそぼう紙の工作では、様々な紙工作を作り楽しい時間を過ごすことができました。子ども映画会では「こびと大研究」「ジャッキーのおたんじょうび」を視聴覚室にて上映いたしました。5月6日には「本とあそぼう 全国訪問おはなし隊」に来ていただきました。たくさんの本を積んだトラックが図書館横の駐車場に到着しまして、シートの上で思い思いに本を楽しむ姿が見られました。ボランティアの方にはおはなし会もしていただき、78人の参加者がありました。6月7日には「きりん文庫かすが」を主宰してあります徳永明子さんをお迎えしまして、読書ボランティア講座「赤ちゃんおはなし会の大切さ～赤ちゃんに『生きたことば』の喜びを～」と題して講演いただきました。赤ちゃんに語りかけることの大切さをしっかりと学ぶことができた講演会になりました。本来ならば10月に図書館まつりを実施しておりますけれども、昨年度は9月から閉館、臨時図書館開館ということになりましたので、第21回図書館まつりを7月24日から26日にかけて行いました。大人用のお楽しみ袋貸出し、除籍になった本を市民の方に活用していただくブックリサイクルを行いました。図書館クイズ、ことちゃんぬりえなどを行い、優秀者には図書券を配布いたしました。ことちゃんぬりえで入賞した作品はリーパスプラザ横の道路沿いの壁面の「まえけんギャラリー」に掲示をいたしました。布の絵本展示、押し花しおり作りは講師の安武祥子さんを迎えて行いましたが、大変好評で44名の参加がありました。26日には、市内地域文庫6団体によるおはなし会スペシャルを行い、ストーリーテリングや、大型絵本の読み聞かせ、人形劇などの出し物をしていただき、視聴覚室いっぱいの子供達、親御さんでにぎわいました。9月10日から12月27日までは、サンフレアこが全体がLED工事、図書館の増床工事のため、リーパスプラザ研修棟105号室で臨時図書館の開館を行っております。1月にはサンフレアこが、図書館のリニューアルオープンに向け準備、蔵書点検を行いました。1月30日には、古賀市親子読書会「第46回古賀市親子読書のつどい」をリーパスプラザ大ホールで行いました。各小学校の親子読書会の皆さんのステージ発表、劇、群読などをしていただきました。鈴木章先生にもお越しいたいただき、読書の大切さ、楽しさについての講演、手品も見せていただき、盛況の中終了することができました。2月1日には、サンフレアこがの事前見学会を行いまして、本協議会委員の皆様、教育委員会、文教厚生委員会の委員さんをはじめ、日ごろからお世話になっているボランティアさんなどに見ていただき、2月2日のリニューアルオープンを迎えたところです。月例行事は、どようおはなし会、赤ちゃんおはなし会、小さい子のおはなし会、名画会、子ども映画会などを実施しました。工事のためにサンフレアこがが休館になったため、9月から1月までやむなくお休みさせていただいた行事もありました。※印のついた行事につき

ましては、小さいお子さん対象でしたので、サンコスモ古賀で開催を続けております。星印がついている行事は、お楽しみ袋貸出し、名画会、ことちゃんぬりえ、押し花しおり等、介護支援課で実施しています高齢者外出促進事業の対象といたしまして、高齢者の方にたくさん御参加いただき好評いただいたものでございます。以上で平成 27 年度図書館事業報告を終わらせていただきます。

(会 長) : ありがとうございます。図書館事業報告と歴史資料館事業報告を一括で審議したいと思っておりますので、ご報告をお願いします。

(事務局) : 文化振興係から平成 27 年度の歴史資料館事業の報告をさせていただきます。平成 27 年度の歴史資料館事業について一覧表にいたしております。自然史・歴史講座につきましては、年度当初に企画しておりましたとおり、6 回の講座を実施いたしております。6 回の合計参加者数は 200 名でございました。第 1 回目は 5 月 29 日に「古賀の歴史探訪 小野の里めぐり」と題しまして、市のマイクロバスを使用しての現地学習を行っております。古賀市史跡案内ボランティアの方に案内をお願いいたしまして、船原古墳それから小山田斎宮などへ小野地区の史跡を巡っております。第 2 回目につきましては、講演会を開催いたしております。6 月 7 日、講師は九州歴史資料館の加藤和歳様でございました。「船原古墳の科学調査最前線」と題しまして、船原古墳遺物埋納坑から出土しました馬具等について、最前線の調査状況等を詳しく講演いただきましてとても好評でございました。第 3 回は 8 月 2 日に「むかあしむかしあったとき～民話に出てくる民具たち～」と題しまして講演を行っております。講師は土屋ミニ子ども図書館「とんからりん文庫」を主宰されております土屋富子さんでございます。前年度の企画展の関連事業として開催いたしましたものでございます。子どもさんから大人の方まで、民話に出てくる民具道具等について楽しく学んでいただきました。第 4 回は 8 月 20 日に「夏休み史跡探検隊 子どもカメラマンが行く」と題しまして、小学校 5、6 年生を対象にして行っております。みあけ史跡公園、青柳宿、天降神社の 3 か所をめぐるまして、ガイドは古賀市史跡案内ボランティアの方をお願いいたしました。現地で子ども達がそれぞれカメラで写真を撮りまして、ボランティアさんのご説明を聞いて、学習に役立てて頂いております。第 5 回の講座は 10 月 3 日に「長崎街道の宿場を訪ねて～黒崎宿から木屋瀬宿まで～」と題しまして、北九州市の木屋瀬宿近辺の散策などを行っております。第 6 回は「甞る伊都国歴史浪漫～伊都国歴史博物館と糸島の史跡めぐり～」と題しまして、現地学習ということで、櫻井神社、平原歴史公園、伊都国歴史博物館を回っております。続きまして企画展でございます。昨年度は企画展を 7 月 24 日から 8 月 30 日の間に開催いたしました。企画展は、例年夏休みの期間に実施いたしております。子ども達の夏休みの間の自由研究等の学習に役立てていただくような形で実施しているものでございます。「昔話と道具たち」と題しまして、先人がつくり出した生活民具などを昔話や古賀に伝わります伝説などをとおして紹介、展示をいたしております。参加者数は 1,552 名でございました。同じく企画展のイベントといたしまして、大型紙芝居の上演を行っております。古賀紙芝居サークル「カチカチ会」という団体さんに連携をお願いいたしまして、民具などが登場する昔話などの大型紙芝居を 3 回上演していただいております。参加者の合計は 102 名でござい

ました。歴史資料館の展示についてでございます。サンフレアこがの改修を行いました後のリニューアルオープンに際しまして、歴史資料館の展示室の展示資料を大幅に見直し入替えを行っております。古賀市から出土した遺物等を中心に置くということで今回大幅な入替えを行いました。キャプションといいます説明文ですとか名札につきましても、文字を大きく見やすくしたり、ふりがなを振るなどの工夫をいたしております。船原古墳に関する常設展示コーナーも展示パネルを刷新しまして、最新情報の展示にしております。通年の活動としまして、広報での事業のお知らせ、教育普及業務といたしまして、小学校の教科学習や就業体験、一般団体の見学の受入れをしております。来館者の方に展示内容により興味を持っていただけるように、「船原古墳歴史クイズ」や「歴史資料館歴史クイズ」などを新たに作成して、展示室の中を見ながらクイズを解いていただくという形で作成いたしております。展示物の写真パズルを新たに2点、船原古墳関連のもので作成いたしております。船原古墳展示コーナーに古墳時代の馬の等身大パネルの絵を設置しまして、馬具の飾りつけをして遊べるようにして、子ども達が楽しみながら学べるようにいたしております。その他刊行物につきましても、歴史のアルバム新版1種、改訂版2種などを発行いたしております。最後になりますけれども、資料収集整理活動につきましては、1番下のところに記載しております、昔から地域で行われてきた祭りや行事、産業、生活の様子など、古賀の歴史に関するお話を、それぞれの地域の高齢者等に伺うとともに、個人所蔵の古文書類の確認作業等を行いまして、郷土史料として保存できるように、情報収集を行っております。文化振興係からのご報告は以上でございます。

(会 長) : ありがとうございます。図書館事業、歴史資料館事業、両事業の御報告をいただきました。ただいまの報告につきまして、御質問ご意見等ありましたらお伺いしたいと思っております。図書館事業の方から参りたいと思っておりますが、ただいまの御報告をお聞きしましていかがですか。私の方からよろしいですか。図書館事業の中で、昨年度工事に伴いまして閉館の期間がありましたけど、年間の利用者数というのは、集計が出ておりませんか。平成27年度と前年度との比較等ありましたら一緒に。もう一つ質問しておきます。昨年度図書館の方がアイデアを出されて、例えば雑誌スポンサー募集をされたりしていますね。その辺の進捗状況等ありましたら合わせて、新しい方等のアイデアを出されて創意工夫をされておられるのではと思っておりますのでその辺のことも何か御説明できることがありましたら合わせてお願いしたいと思います。よろしいですか。

(事務局) : 図書館の利用者の入館者数につきましては、平成26年度は197,235人でしたが、昨年度は臨時図書館も合わせまして、130,562人というふうになっています。1日平均で485.4人、それから月平均では11,869人ということになります。

(会 長) : ただいまの利用者の入館者数をお聞きしまして委員の方何かご感想でもあれば、よろしいですか。リニューアルされる時、いろいろ改革されたり幼児コーナーを作られたり雑誌スポンサー広告募集をやっておられますよね。その辺の苦労話とか、進捗状況があったら途中経過で結構です。

(事務局) : 雑誌スポンサー制度を2月からしております、営業にまわりましてもなかなか難

しかったのですが、現在 5 冊、言っていただきまして始めているところです。また、図書館の児童コーナーを増床いたしまして、児童コーナーの奥のほうに緑色で五、六人ぐらい座れるような場所を 3 歳児コーナー用のスペースとして、今年度よりセカンドブック配布事業を始めますことから、3 歳児におすすめの本等を並べてご紹介して使っていただくようにしております。

(会 長) : ありがとうございます。委員の方向か今までの御報告あるいはまた内容にないような件もまた御質問等あれば、図書館事業につきましてよろしいですか。

(委 員) : 草野です。赤ちゃんおはなし会も数的にはまだあがってきてないと思うんですけど。今朝のNHKのアサイチをご覧になったかたはご存じかと思うんですけど、千代田区の図書館が出ていて、いろんなレファレンスや利用方法、読み方など放映されていました。お子さんがなかなか寝付かないと悩むお母さんに、専門書とかハウツー物とかを紹介するのかと私達思うんですけど、司書さんは児童書コーナーの子どもの学習参考書のような簡単な文章を紹介されて、若いお母さんがすごく読みやすいと飛びつかれたので、私はちょっとびっくりしたんですね。図書館の児童書コーナーは大人が利用したら若いお母さんにもいいのかなと今日改めてテレビで知って思っております。また、来館者は多いかもしれないんですけど貸出し冊数がちょっと減っているような感覚を持っているんですが、統計が報告で出たら見たいと思っています。なぜかなってというのが、私の中にあるものですから、私達ボランティアも考えていきたいなと思います。以上です。

(会 長) : ただいまの草野委員のテレビニュースの件だとか御質問ですね、貸出し冊数、その件について図書館の方で何かご感想あれば。

(事務局) : おはなし会の参加人数については、平成 27 年度が子どもさんが 364 人、平成 26 年度が子どもさんが 748 人、大人の方が 469 人です。9 月から臨時図書館を開館している間、どうもおはなし会はお休みしていたんですけども、臨時図書館を開館している 105 号室の横の部屋で、どうもおはなし会に来ていただいているボランティアの方が有志でおはなし会をしてくださしまして、本当にそれは子ども達のためにととてもありがたいことだなと思っております。草野委員さんも来ていただきましたけれども、ありがとうございます。図書館の貸出し冊数はやはり減少傾向にはあるのかなと思います。2 月から図書館開館を始めましたが、周りの駐車場などがまだ整備されていません。図書館の駐車場も 4 月 16 日からやっと利用できるようになりまして、図書館カウンターの臨時職員に話を聞くと、人が少しずつ増えているような気がしますということは言っていただいております。電話で「開館しないんですか」と聞かれたり、「図書館の横の交流館が図書館になる」と思っている方もいらっしゃるみたいで、周知徹底できていないところがあります。図書館が利用できるということを広報やホームページ等でアピールしていく必要があると思っております。大人の方の利用にしても、読書ボランティアの方に使っていただく読み聞かせコーナーは設けておりますが、一般の大人の方にも見ていただけるように検討していきたいと思っております。

(会 長) : ありがとうございます。取組みぜひよろしくお願いいたします。

(委 員) : 鈴木です。今の発言と関連するんですが、工事の期間中にこがめルームまたはサン

コスモ古賀でおはなし会を開いているということがでていて、とても大事なことだと思って感心したんですよ。1点目は、図書館の方針の中に大事だから続けようということがあるからこそ場所を変えてでもするわけでしょう。2点目は市民の側からすると多分PRがあったのではないかと思うんですけど、工事だけでも続けますよと。つまり、市民としても図書館としても大事にしているんですよ。そういう意味では続けているということにもものすごく感心しました。図書館と言うのはまさにすべては市民のためにというキャッチフレーズがよく言われるんですよ。まさに市民のためにどう動くのかっていうのは、置くだけではなくて積極的に活動を進める。そして工事になったときでも別の場所にしても続けますよということがとても大事じゃないかと、改めてすごいなと感じましたので、感想を言わせていただきました。

(会 長) : 貴重なご感想をありがとうございます。

(委 員) : 橋本です。草野さんの方からレファレンスということでわかりやすさと児童書ということをつないでいただきました。昨年度から学校における図書館開放ということで前任校の小野小学校で子どもの本だからあきらめていた本にチャレンジできたという市民の方の声が実は上がっていました。料理本が子ども向けはわかりやすい、図鑑はすぐに見られてわかりやすいというお声をいただいていたので、今草野さんがおっしゃったこと、地域の中の学校として図書館を開放するという意味づけというんでしょうか、少し学校はアピールしないといけないという感想を持ちました。児童書は大きい文字でわかりやすい、大人の方にも地域の方にも来ていただけるっていう意味で、図書館だよりを最初から地域に配布するなどの努力をしていかないといけないと思いました。小野小学校で、新刊が入ったら教えてくださいって言われたんです。とても大事だなと思ってですね。新しい本が入りましたというご案内も地域に発信できるように努力しないといけないと草野さんのご意見から改めて思ったところです。校長会の方でもこういうご意見出たことは伝えていこうと思っております。以上です。

(会 長) : ありがとうございます。図書館では学校で上がっている意見とかの情報収集はされているんですか。

(事務局) : 学校とは連携しながら図書館でも支援を行っているところですけども、昨年度は学校に地域の方が入れるようにということで学校図書館開放が行われるようになりましたし、図書館でもできることがあれば、今年度学校との連携を目標に掲げておりますので、話しながら進めてまいりたいと思っております。校長会には先日参りまして、支援と連携ができますのでよろしくお願ひしますということはアピールして参っております。

(会 長) : もうすでに貴重なご提言等も出ておりますけど、他に何か図書館事業につきまして御質問意見等ございませんでしょうか。次に歴史資料館事業につきまして、御質問ございませんでしょうか。

(委 員) : 「カチカチ会」の大型紙芝居上演というのがあるんですね。ギャラリーでやられている「昔話と民具たち」と関連があるんじゃないかと思うんですが、自作の紙芝居をつくられてより一層歴史資料館でやっている企画展を充実させようということでしたんでしょか。どこかから借りたのでしょうか。それとも自作でしょか。

- (事務局) : 古賀紙芝居サークル「カチカチ会」さんは、もともと古賀にまつわる伝説や民話などを中心に大型紙芝居を自作で作られているという団体さんでございます。そういった関係からこの団体さんにぜひということで、企画展とマッチした形でお願いした次第でございます。
- (会長) : 生涯学習推進課の市民講座を受講された方たちから誕生されていますので、全くゼロから皆さん練習されてスタートしております。けっこう引っ張りだこで、人気があります。紙芝居もかなり大型です。
- (委員) : 紙芝居というのは、まさに紙でしょう？今デジタル化して画面に大きなスクリーンに映す、そうじゃなくて、アナログで生の声が伝わってきますね。こういうことが大事ですね。ぜひ脈々とつづくこういった考え方をつなげていってほしい。伝わるのが違うんですよ。
- (会長) : 今ボランティアで 7、8 名ぐらいおられます。また機会がありましたら PR してください。
- (委員) : 学校にも活用を広げるべきだと思いますね。
- (会長) : ほか何かございませんでしょうか。
- (委員) : 引き続きで、私どこからそのお話が出ていて脚本化されてるのかなって思って。私民話とかを語りたくて、この間古賀町誌って昔発行された本を探していましたらそこにしっかり載っておりました。歴史資料館にあると思うんですけど、これ今ほしくてもなかなか手に入らないんですよ。そこにきちんと文字化して保存されてあったので、今逆に口に載せられるというのがすばらしいなど。私今年から古賀の民話を文章を語り口にしようと思っているんですけど、ある方が個人的に発行された本の中に薬王寺関係がありましたので、やっぱり歴史資料があったということは、やっぱり歴史資料館すばらしいなど今改めて思っております。
- (会長) : 文章でもありますし DVD でも歴史資料館の方では利用できるようになっております。ただ、テープ、聞き語り、そういうものは残念ながらまだないんですけど。ほかに何かございませんでしょうか。今日は最後の会議になりますので。
- (委員) : 先日、図書館の 2 階に上がって歴史資料館の展示を拝見しました。以前は何か暗い感じで入りにくいコーナーがある感じだったんですが、今度行ってみてとても良くなっていましたので一言申し上げようかなと思います。本当に文字も大きく、子ども達や我々大人にとっても文字が大きいとかわかりやすいというのは本当に助かります。いろんな工夫がしてあって、以前と比べると格段に良くなっていると私は感じました。この現場を見ることができて何か進化しつつあるなど一言申し上げます。
- (会長) : ありがとうございます。
- (副会長) : 加藤です。昨年度まで中学校に勤務しておりました、リーディングリーダーを連れて歴史資料館に見学に行った時に、馬の模型、実際に飾りをつけるのとカクイズとかがあり、子ども達がとても興味を示しました。連れて行った子ども達は古賀で発掘されたということを知ることができ、体験ができてラッキーだと思いました。しかし本当に行ける子って一部で、学校でクラスや学年で歴史資料館に連れてこられるとたぶん覚えるし見ることができるんだけど、なかなか広がっていかないという

のを感じているんです。やっぱり学校によっては、見学に行っていないですよ。例えば歴史資料館のパンフレットを子ども向け、小学生が読めるような形で作って各小学校の子ども達に配ったりするとかいいのかなと思います。初めて見たっていう子どもも多くて、中学校に戻って、古賀で馬具が発見されたのを知ってる？と子ども達に図書館で聞いたんですけれども、ほとんどの子が知らないのもったいないなと思いました。図書館があることはほとんどの子は知っています。子ども向けの歴史資料館を知らせるためのもの、歴史資料館にこんな資料があるよ、来てみないっていう感じで、何かPR するようなリーフレットとかあるといいなと思うんです。特に、来年度新しい生涯学習センターが開館すると子ども達の学習室も多分充実されて中学生、高校生も小学生ももっと来ると思いますので、その辺でもう少し、小中学生に歴史資料館に来てもらえるといいなと思います。

(会 長) : 歴史資料館の担当の方に、先ほどパネル表示とか展示コーナー、リニューアルされて大変よくなったという評価をされましたけど、その事についてのコメントだとか、子ども向けのパンフレット、リーフレットをぜひ作ってほしいということについての回答をお願いしたいと思います。

(事務局) : ありがとうございます。今回のリニューアルに際しましては、子どもさんからご年配の方まで、なるべく見やすくわかりやすい展示、表示ということで、改修をいたしております。子どもさん達にとっては、特に体験するということが、見る、触れる、実際に体験するということがとても重要なポイントになってくると思っておりますので、今後もそういったことができるような資料館にする方向で工夫をしていきたいと考えております。歴史資料館の案内のパンフレットにつきましては、今後検討させていただきたいと思います。小中学校へのご案内につきましては、毎年、年度当初に4月の校長会の時にこういった事が歴史資料館ではできますよ、例えば3年生のカリキュラムですと昔のくらしと道具等の説明や、また船原古墳についての説明もできますというご案内をいたしております。今後とも、小中学校はじめいろんな団体さんにも活用していただけるよう、パンフレットやホームページ等、なるべく皆さんにも来ていただけるような形で広報周知を図っていきたくて考えております。以上です。

(会 長) : ありがとうございます。委員の方よろしいですかね。ほかの件で何かございませんでしょうか。では平成27年度事業報告につきまして、事務局からの説明を承認していただけますでしょうか。(拍手) はい、ありがとうございます。事務局報告については承認をさせていただくということで、次2番目に入りたいと思います。

(2) 平成28年度事業計画について

(会 長) : 平成28年度事業計画につきまして、同じく図書館事業のほうからお願いしたいと思います。

(事務局) : 図書館から平成27年度の事業計画についての説明をいたします。4月16日17日、子ども読書のイベントを開催しております。4月14日と16日未明におきました地震で途中で避難も念頭にありながら開催しましたが、当日はほとんど影響がなく、天候にも恵まれまして参加された皆さんには好評を得ております。「親子で楽しもう！絵本ライブ」にはシングルパパで絵本伝道師の宮原礼智さんをお迎えいたしました。子

ども達、赤ちゃんを連れた家族連れなども多く見えまして、55名の親子に参加いただいたところです。子どもたちには楽しいお話を、親御さん向けの本も用意されまして、子育てを応援するメッセージの入った本を読んでもらいました。参加された保護者の中にも目頭をぬぐうような様子も見られております。「絵本は間違いがないです」と絵本を親子で楽しむことをとても薦められまして、好評であったと思います。お楽しみ袋貸出しは昨年赤ちゃん向けが人気でしたので、たくさん用意しましたが、今年度は小学校1～2年生、3～4年生向けの袋が早くなくなりましたので、次にはもう少し準備が必要であったと反省をしたところです。ぬいぐるみおとまり会は、前年に引き続き好評でしたので実施しております。ぬいぐるみ離れができないお子さんが参加されまして、お母さんが「離れるというところがちょうどいい機会でした」とおっしゃっていただいたということもありました。子ども達は一夜ぬいぐるみが図書館を探検した写真を見て、夜ぬいぐるみさんに絵本を読ませるような設定で写真を撮っているんですけども、その本を皆さん自分で読んでみようということで借りて帰る姿が見られました。「あくしゅでこんにちは“ことちゃん”」は、昨年度コスモス文庫の村山さんより寄贈していただいた着ぐるみのことちゃんがお子さんと握手したり、写真も撮ったり、最後に踊ったりしていただきまして、大変子どもさんに喜んでいただきました。図書館が親しみやすい場所として読書の推進を進めていく上で大変活躍してくれていまして、本当にありがたく思っているところです。2月より図書館システムを更新いたしまして、読んだ本の記録のシールが印刷できるようになりました。親子でシールを貼って読書記録を残すことができるように読書ノートの作成を考えまして、「親子で作ろう！読書ノート」を実施しました。27名の親子に参加していただきまして、表紙のことちゃんぬりえなどを作り、記録の用紙をつけて、それぞれのオリジナルの読書ノートを作成することができました。子ども映画会も行いまして、全体として計画どおりに実施できました。駐車場が利用できるようになったことなどが周知不足で全体的に参加人数が少なかったこと、行事への集客を増やすことが今後の課題となったに思っております。引き続き平成28年度も子どもの読書活動推進に向けて取り組んでまいりたいと思います。4月中旬より新小学校1年生の読書ノートを配布するというので準備を進めているところです。親子イベントの時にも作成いたしましたけれども、こちらは小学校で借りた本も加えて記録していくことができるように作成をしております。小学校の司書さんが1年生におすすめの本のリストを作っていましたのであわせて載せております。読書記録を書いたり、たくさん貼ることで達成感を味わってくれたり、読書の動機づけというところで進めていけたらと思っております。配布については、4月の校長会等でもお話をさせていただきました。市立図書館司書が学校へ出かけていきまして20分程度のおはなし会をした後に、図書館マスコットのことちゃんから読書ノートのお渡しをしたい、お時間があればということで学校に説明をしております、日程調整を進めているところです。6月には全4回の予定で「読書ボランティア講座 おはなし会の道具づくり」ということで、絵本『ぐりとぐら』の人形を軍手を使って作成する講座を計画しており「布の絵本制作ボランティアつくしんぼ」さんに講師をお願いしているところです。7月には「おはなし会

スペシャル」ということで市内の地域文庫 6 団体さんに大型絵本の読み聞かせなど楽しい出し物をお願いしております。4 月 24 日に地域文庫連絡会がありましたので、打ち合わせをしているところです。7 月後半から 8 月にかけて、中学生読書サポーター養成講座を 3 回の予定で行います。昨年度は学校教育課で R L P リーディングリーダープロジェクトの中で取り組まれておりましたが、今年度は図書館の事業として中学生対象として実施予定にしております。内容は図書館見学体験、2 回目は内容未定ですが、3 回目には POP 作成講座を予定しております。ヤングアダルトコーナーの整備もしていきたいと考えているところです。図書館では中学生、高校生の利用が減少傾向にあると思っております。多感な時期に本を身近に置いてほしい、読書推進につなげていけたらと思い実施したいと思っております。読書講座につきましては年 3 回予定しております。表の 1 番下に米印でつけていますが、1 回目はデータベース活用講座 ルーラル（農文協）、野菜づくりや病害虫のことを調べにいらっしゃる利用者の方が多かったものですから、気軽に詳しく調べることができるように今年度より導入した農業に関するデータベースを使う講座を一つ設けております。2 回目は 9 月 18 日、「松本清張ワールドを歩く」（仮題）、講師に萩原桂子さんを迎えて行いたいと思っております。12 月にも講座を予定をしていますけれども、現在、調整中です。10 月には例年のように図書館まつりを予定しております。詳細につきましては、今後協議をしていながら詰めていきたいと思っております。11 月には親子おはなし会「ぐりとぐら人形を使ったおはなし会&カステラづくり」を予定しています。図書館がリニューアルオープンをした時にご覧になった方もいらっしゃると思うのですけれども、図書館の児童コーナーにぐりとぐらのタペストリーを「布の絵本制作ボランティアつくしんぼ」さんに飾っていただきました。その後 6 月に「ぐりとぐら人形をつくりましょう」ということで読書ボランティア講座にて人形をつくります。11 月には、今度はぐりとぐら人形を使いまして、おはなし会をしてみよう、それらの中に出てくる、カステラづくりまでそこでしてしまおうということで、楽しく過ごしていただくように計画をしております。1 月ですが前年に読書ボランティア講座にも来ていただきました徳永明子さん、そして石川文代さんをお迎えして、「大人のためのおはなし会」を予定しております。1 月 28 日土曜日には、古賀市親子読書会「第 48 回古賀市親子読書のつどい」を行っていきたくと思っております。場所については大ホール又は新しい多目的ホールで今後詰めていきたいところです。蔵書点検は 2 月 27 日から 3 月 6 日まで計画をしております。月例行事はそこに記載しているとおります。今年度からセカンドブック事業ということで、3 歳児にも絵本を手渡したいということで取り組みを始めております。健康づくり課に 3 歳児健診を受診される児童の皆様へ「3 歳向けの絵本をプレゼントしますよ」というセカンドブックのお知らせを一緒に入れていただきます。次の月のこちらが指定した日、セカンドブックおはなし会という日を設定しまして、その日に来ていただいておはなし会の後、5 冊の絵本の中から選んでいただいて 1 冊持ち帰って親子で楽しんでいただくというふうにしております。月 2 回程度セカンドブックおはなし会を予定しております。年間 24 回、図書館とサンコスモ古賀にも行きまして、何回かは 3 歳児健診の日を実施しようと計画をし

ているところです。また、今年度は「古賀市子ども読書活動推進計画」を見直し、第3次計画を作る予定にしております。この推進計画は「子どもの読書活動に関する法律」に基づきまして、「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」「福岡県子ども読書推進計画」を基本としまして、子どもが読書の楽しさやすばらしさに出会い、読書を通じて心の豊かさや人生をより深く生きる力を身につけることができるような環境づくりを進めまして、子どもが健やかに成長することを目指すものです。この計画は大体おおむね5年ごとに見直しを行っておりまして、平成18年第1次計画策定、平成24年改訂、そして、平成28年度が第3次の策定の時期になっておりますので、策定協議会を発足しまして取り組んでまいりたいと思っております。以上です。

(会長)：ありがとうございました。図書館事業計画につきまして詳細を説明いただきましたので個別に協議していきたいと思っております。よろしかったら資料見られますか。

(事務局)：回覧してよろしいでしょうか。以前の改訂版の資料です。

(会長)：お持ちでないと思っておりますので、回覧していただきながら、協議に入りたいと思っております。ただいま説明いただいたんですけども、私どもの協議会は今日が最後で解消した後は新しく協議会ができるかと思っておりますけども、ただ我々にとっては、新しい会というのは期の途中にあり、既に走り出していますので、会の協議は責任があるかと思っておりますので、皆さん、ご意見をいただきたいと思っております。何かございませんか。

(副会長)：加藤です。詳細にありがとうございました。公共図書館は市民にとって生涯学習の拠点だと思います。古賀ぐらいの規模だったら本来は個人的に分館があってもいいと思っているぐらいですけれども、古賀市の場合は本館しかありません。鈴木委員が言われたように、事業計画案を見ているとどこに力を入れようとしているかというのがすごく見えてくると思っています。やっぱり子どもの読書推進というところに非常に力を入れているということは感じられて、個人的に非常にうれしいんですけども。全部で3点あるんですけども、1点目は、古賀市は子どもだけではなくて大人の方もたくさんいらして、高齢化も進んでいますし、介護予防と言ったら失礼ですけど、もっと大人の方にも利用してもらいたいと思ったときに、子どもに配布している読書ノートの大人数版があるといいなと思っております。実は、自分も借りた本がもう一回読みたいというときに、今は読書記録が見られないので、自分でメモしておこうと思うのですけれどもなかなかメモできず、子どもだけではなく大人にも向けて読書ノートがあったらいいんじゃないかなと思っております。もちろん希望者だけで、とても費用がかかるのであれば、有料ということでもいいと思うのですけれども、良いのではないかなと思っております。2点目は、読書講座なんですけれども、大抵一方的な読書講演会になっているんですけれども、本を読むというのは個人的な体験ではありますが、読んだ本を通して交流し合うことで人とつながるということがあります。そういう試みとして例えば読書会とか、ビブリオバトルといったものが今結構行われていると思うのですけれども、交流する中で、ほかの人の読み方とか、感じ方を自分のものとしてとらえることができる活動というのはすごく人を成長させるものではないかなと思っております。一方的に誰かの講演会を聞くだけではなく、参加者同士が交流し合えるような取り組みもしていただけたらと思っております。3点目ですが、図書館に入ったと

きに何が 1 番目立つかという、特設展示なんです。特設展示、例えば芥川賞、直木賞とかは誰でも考えられる展示だと思うんですよね。ベテラン司書の方が何人もいらっしゃると思いますので、司書ならではの視点で、今回はこの辺の本を紹介したいという思いを持って特設展示をしてもらいたいと思っています。例えば、非常に抽象的な言い方なんですけれども、市民の一步先ゆく図書館、市民の啓発できるような図書館、選挙権でもいいし、今問題になってる地震とかでも何でもいいんですけれども、例えば社会問題となっていることとかも取り上げて、先ほど草野委員も言われましたけれども、同じテーマでも児童書の中にわかりやすいものが非常にあります。自分も勉強していて、すごく難しい言葉は児童書でまずあたって概要つかんだうえで専門書に戻ってというやり方をするんですけれども、同じテーマで児童書も一般書もあると思いますので、市民の学習意欲をかき立てるような司書さんならではの展示ができるのもっと本が動くのではないかと。動いていない棚の本をいかにして動かすかというのは図書館員の腕にかかっているんじゃないかと思っていますので、期待しています。以上です。

(会 長) : ただいまのご提言に関して、これからの計画あるいは運営にどのような反映されるか、回答お願いいたします。

(事務局) : はい、貴重なご意見をありがとうございます。3点ありましたがまず1点目ですけれども、大人の方にも読者ノートということで、今、ホームページ上でも読書記録が残るように、図書館システムの更新後できるようになっていまして、今まで借りた本の記録が残ったり、読書マラソンと言って目標の冊数を決めて、どれぐらい読んでいるかとかできるようになっておりますので、そちらのほうも利用いただけたらいいかなと思います。また、読書ノートは現在親子で作っていただきましたけれども、それを PDF でホームページに載せたりしながら利用していただけるように考えていけたらいいなと思っています。ぜひ、皆さんに浸透していったらと思っています。2番目の講座ですけれども、参加型、読書会、ビブリオバトルということで意見をいただいております。こういうところにもチャレンジできていないところがあるので今後検討させていただいて考えていきたいと思っています。特設展示コーナーの話がありました。市民の一步先をいうことで、季節ごとの掲示が主なことになっていまして、その他に賞をとった本の掲示だとか本屋大賞などそういう掲示をしておりますけれども、今ご意見をいただきまして、しっかりとこれから話をまた帰っていただきまして、学習意欲をかきたてるような掲示にまた努めてまいりたいと思います。リニューアルしまして、一般のコーナーと、児童のコーナーにも今度展示コーナーを作っております。2カ所、また、充実していけたらいいかなというふうに思っているところです。貴重なご意見ありがとうございます。

(会 長) : よろしいですか。ありがとうございます。

(委 員) : 河村です。今話題になりました第 2 の点、図書館が職場の現役を退職された方々にとっても非常に重要であるというのは、昨年私も申し上げました。論点の延長線上に、読書会、大人が寄り集まっているいろいろな意見を一つの本に関して交流すると、それが非常に大切な場になるのではないかとということも、昨年申し上げました。これは繰り返して今も御指摘いただいた第 2 点で私もこれは非常に重要だと思っています。具体的

には、図書館自身がそこまで設定してというのではなく、アレンジメントと場所を貸して後は有志の方をどなたか募るか見つけるかして自主運営をしていただければいいことであって、図書館が全部をアレンジする必要は全くないと思うんですね。そういうことに関心のある方っていうのは自立した方が集まるでしょうからね。私自身も、我々がとったりもしますが、元気のある方がコーディネーターになっていただいて、退職の方からできれば40代30代の方、寄り合えるようにすれば、本当に真剣に取り組んでいただければ結構小さい規模の市でも生涯学習を言葉だけではなくて、実際にこういう形でやっているじゃないかということも関心は私はあると思うんですよ。私はできればそういうのができれば、ぜひ、時々参加させていただきたいということはずっと思っていました。第2点に関してはすでに議事録を見られたらあるように大事な点で、ぼくはそれを何度か申し上げたんですね。うまくいく、いかないは別にして、まずは図書館のほうでそれなりの調整をとりながら、具体的にあたりをもう少しつけていただけたらできなくはないのではと思います。古賀の図書館の新しい目玉にさせていただければと思います。以上です。

(会長)：ただいまのご意見、以前の議事録に残っているかと思しますので、ご確認いただきたいと思います。

(事務局)：市民の図書館ですので、本当に、そちらの方から盛り上げていただくとこちらでも支援をしていきたいと思います。ありがとうございます。

(委員)：長野です。4月に行われたぬいぐるみおとまり会ですけれど、実は私、2人孫がおりまして、2人とも親と一緒に来ていたときに、この話をしましたら、親も子ども達も飛びついたんですよ。ところが、上のほうは飛びついたんだけど、女の子のほうは大好きなぬいぐるみがあって「でもね、ぼぼちゃんを一人で行かせたらかわいそうだから、私一緒に行けるならお泊りする」って言うんです。それも子どもの心理、私も初めて気づいたんですけど。もう1人は男の子なんですけれど、彼にとっては1番大事なものがぬいぐるみじゃなく電車なんですね。彼曰く「電車は泊まれないんだね」という一言が、痛烈に感じて、そういう子どもの思いがあるということ、もしよかったら参考にさせていただけたらなと思って、今発言させていただきます。

(委員)：橋本です。読書ノートのことです。実は、小野小学校で独自の紙で増し刷りしたような読書ノートを使っていたんですけど、新1年生を対象に、すてきな、子どもの手に収まるようなノートを作っていただいて、1年生を突破口に図書館の方でとってくださった試みを、小学校でまた改訂版をだすというような形でつないでいきたいと思っております。ことちゃんまで来ていただけるということで楽しみにしております。7月に中学生の読書サポーター養成講座を今回新しくということで、実は、古賀市は県教育委員会主催で進めてあった事業が終わった後も、市独自でリーディングリーダープロジェクトを進めてくださっています。そのことで本当に図書館の子ども達も育ちました。図書館の委員としてまた全体が育つという好循環を生み出していただいております。そのことがまた中学生にということで古賀市では当たり前なんですけど、他町についてはなかなかされていないということ、他の司書から聞きました。組織的に継続的な養成講座やプロジェクトを続けてくださっているのは本当に古賀市独自の

取り組みであるということを改めて実感しております。先ほどビブリオバトルも出ておりましたが、私も知りませんでした、実はやっぱり読書リーダーの子どもが広げてくれて、全校の読書集会のときに、こんなふうにするんですよということで、模範を示してくれました。本当にぶっつけ本番だったんですけども、充実した会ができました。子どもが子どもの姿で子どもに伝えるっていうことは、特に古賀市の特色、良い取り組みの中で子どもが読書環境を豊かにしているなということで改めて感謝します。ありがとうございます。現場でもしっかりとリーディングリーダーの取り組みや読書サポーターの取り組みは他の市町にない取り組みだということを確認しながら進めていきたいなと改めて思ったところです。先ほど平成 24 年度の古賀市子ども読書活動推進計画の改訂版を見せていただいて、大正 8 年に薄図書館が契機となって村人が読書活動をするようになったということで資料編のところを見ておりました。こういう歴史が大正 8 年から脈々と続いているのを子ども達にも知らせないといけないし、各学校現場でも古賀市の取り組みのすごさを言葉にしていけないといけないなと改めて思いました。意見というよりも感想です。

(会 長) : ありがとうございます。先ほど意見が出ていましたけれども、読書サポーター養成講座、今度図書館として取り組むということなので、対象者だけでなく一般市民にぜひ PR していただければとお願いしたいと思います。ほかによろしいでしょうか。

(委 員) : 草野です。布の絵本についてです。北海道のふきのとう文庫さんが障害のある子どもたちのために作り始めたところから出発しています。古賀市のあすなろ文庫の池田さんは布の絵本の制作を一生懸命ずっと長くしていらっしゃるんです。この間布の絵本の貸出しは団体貸出しというのがわかりました。悩んでいるお母さんからすると個人的に福祉協議会に行けば、布の絵本とかおもちゃとかたくさんあるんですが、私たちはすべての子どもに対応できないかなとその時ふっと考えました。団体も良いのですが個人に布の絵本を貸出ししてもらえないかなと思っているところです。河村委員がおっしゃっていた大人のための読書会も古賀すたいるさんが独自にやっているんですが、お茶飲んだり食べたりするから楽しいんですよ。河村さんお誘いしたらおいでくださって楽しかったんです。河村さんが教えてくださった本から私ストーリーテリングしようと非常に発奮させていただきました。その方たちがおっしゃるには場所代がかかると。そういう方たちを図書館なりが拾っていただいて場所提供を無料でしていただくとかを多分望んでいると思いますし私も望んでいます。そういう状況を知っていただいて、場所を無料でその方たちにしていただくことが 1 番何か発展するのではないかと感じたところお願いできればと思います。

(会 長) : これはあればいいなということでよろしいですか。図書館から最後に何か。

(事務局) : 布の絵本は部品の取り外しとかがあって、個人に貸するのがなかなか難しいところがありますので、はずす部品がない布の絵本からということでは少し考えていきたいなと思っているところですけども、ちょっと難しいかなというふうに思っています。今年度から、障害者差別解消法が施行されて、図書館でも合理的配慮ということで、何らかの手だてをしていきたいと思います。今図書館には、拡大読書器であったり、ディスレクシアって言って文字がなかなかこう自分の読みたいところがき

ちんと読めないっていう障害なんですけど、定規のようなものをあてて字をまっすぐ読みやすくするっていうものがあるのですけども、そういうのも用意しながら、障害のある方を支援していったり理解を深めていったりっていうことは本年度からの課題であるかなというふうには思っております。大人のための読書会についてはまた考えていきたいと思えます。

(会 長) : ありがとうございます。委員の方々にはまだまだ御提案、ご提言があるかと思えますけど、今発言させていただきました提案につきましては、是非反映させていただくように担当の方よろしくお願ひしたいと思えます。次に歴史資料館事業につきまして、計画説明お願ひいたします。

(事務局) : 文化振興係から平成 28 年度歴史資料館事業計画についてご説明させていただきます。自然史・歴史講座についてでございますけれども、今年度、自然史・歴史講座につきましては、資料のほうに記載しておりますとおり 4 回の実施を予定しております。昨年度が 6 回ですので減っているように見えますが、第 2 回の講座を 9 回実施します関係で、実際には全体で 12 回の開催としております。平成 28 年度の自然史・歴史講座につきましてはの特色は二つございまして、1 点目が船原古墳をメインテーマにした事業展開を図りたいということで、後ほど文化財係のほうからまたご説明があるかと思うんですけれども、現在、平成 28 年度中に船原古墳が国の史跡指定を受ける事務手続きを文化財係のほうで進めております。そういったことも記念いたしまして、船原古墳をメインテーマにした講座ということで、4 回の講座のうち 3 回を船原古墳を題材として開催することにしております。2 点目の特色としましては、子ども向け講座の拡充を図るということでございます。第 2 回の講座でございますけれども、体験学習としておりまして、夏休み期間中に『夏休み子ども向け歴史講座～船原古墳と馬具のナゾ～』と題しまして小中学生を対象に 9 回開催したいと考えております。内容としましては、船原古墳についての説明と、船原古墳に関連する紙粘土の工作ということで、前方後円墳や馬具など、今、現在検討中でございますけれども、実際に子ども達に作ってもらって、体験していただくということで考えております。第 1 回の講座から順にご説明いたしますけれども、第 1 回が 6 月 12 日日曜日『船原古墳の馬具に注目！～九州歴史資料館科学調査最前線～』と題しまして、定員 60 名でマイクロバス 2 台用意して九州歴史資料館のほうに参ります。九州歴史資料館の方では船原古墳遺物埋納坑から出土しました遺物の調査を最新の機器を使って、現在も調査をしていただいているところがございます。九州歴史資料館で船原古墳についてのパネル展示を現在 3 月の末から 6 月の半ばまで実施されております。こちらの見学ということも含めまして、企画したものでございます。講座の中では船原古墳のパネル展の見学のほかに九州歴史資料館の実際に調査に携わっていらっしゃる職員の方から埋納坑、遺物についての講演をいただくということで、苦労話なども含めた最前線の調査についてのお話をいただくことになっております。その他九州歴史資料館のバックヤード見学も合わせて行っていただくことになっております。広報の 4 月号に掲載しておりまして、皆さんのお手元のほうにもそろそろ届いている頃かと思っております。参加者の申し込み受付を現在しておりまして、5 月 11 日が締め切りということでご案内をしているところ

でございます。続きまして第 2 回の講座です。夏休み子ども向け歴史講座ということで計画しております。体験ということに主眼を置きまして子ども達にいろんなことを学んでいただくということで、パワーポイントでの説明のほかに実際に工作して体験いただくということで考えております。第 3 回は 11 月下旬ごろ、船原古墳に関する講演会を予定しております。表の下のところにも米印で書いておりますけれども、企画展を通常歴史資料館係の方でこれまでしてございましたけれども、平成 28 年度の企画展につきましては文化課の文化財係が今回船原古墳に関する企画展を実施するということが計画しておりますので、文化振興係の歴史資料館につきましても、企画展の方と連携して協力しながら実施するというようにしております。第 3 回の自然史・歴史講座につきましては、企画展の関連事業といたしまして、船原古墳講演会ということで、専門の先生に講師として来ていただきまして、講演会を開催する予定にしております。第 4 回の講座でございます。現地学習ということで、柳川に参る予定にしております。『柳川で古賀の歴史に会う～立花道雪・宗茂と薦野氏・米多比氏～』と題しまして、古賀に縁の深い立花氏を中心としまして、講座を展開したいと考えております。続きまして歴史資料館の展示についてでございます。今年度も船原古墳遺物埋納坑の最新情報についてパネル展を引き続き実施し常設で展示いたしたいと思っております。九州歴史資料館の方から調査の成果についての報告などをいただく事しておりますので、それが来た段階で最新情報ということで、皆様にご紹介する形でやっていきたいと考えております。もう一つ、スポット展示でございます。年間に数回予定しております、テーマを幾つか設けまして、短期間 1 か月程度や一定期間の展示ということで予定しております。続きまして通年の活動についてでございますけれども、今年度、新たに始める事業といたしまして、広報業務の 1 のところに書いております船原古墳に関するコラムを広報こが誌面に年 6 回掲載と書いてある分でございます。古賀の宝であります船原古墳を市民の方に知っていただく、関心を持っていただくということを目的として実施するものでございまして、内容としましては、船原古墳の調査指導委員会の委員をしていただいている大学の先生や、九州歴史資料館の職員の方などをお願いいたしまして、専門家の立場から船原古墳に関することを書いていただきまして、広報こがの裏面にフルカラーでコラムと、関係する写真などを掲載するというようにしております。刊行物のところに書いております『新古賀風土記(改訂版)』を発行と書いておりますが、現在新古賀風土記の在庫がなくなっている状況でございますので、今年度作成したいと考えております。国の指定ということも今年度予定されておりますので、最新情報に内容を切りかえまして、新たに改訂版をつくるということで考えております。所蔵資料整理業務についてでございますけれども、例年行っております古文書のデジタル化でございます。今年度も引き続き、デジタル化事業を進めてまいりたいと考えております。最後に資料収集整理活動でございます。平成 27 年度の報告のところでも申し上げましたが、本年度も引き続き古文書ですとか、地域で行われてきております行事や生活の様子など歴史に関するお話をいろいろ高齢者の皆様からお伺いして、それを記録して保存していくということを進めていきたいと考えております。文化振興係からは以上でございます。

(会 長) : ありがとうございます。続きまして、文化財係、文化財事業計画について関連があるかと思っておりますので、合わせて御説明をお願いします。

(事務局) : 文化財係から御説明させていただきたいと思っております。主に船原古墳の関連事業と開発に伴う事前審査事業、さらにはいわゆる通常の発掘調査、開発に伴う記録保存のための発掘調査というのが3本の柱になっております。船原の古墳関係の事業でございますけれども、現地の発掘調査は終了いたしましたので、今年度からは主に出土品の整理作業が主なものとなってまいります。場所的は九州歴史資料館にて実施をいたします。作業の中身といたしましてはCTデータの解析、出土品の保存処理、1番楽しみな出土品の復元というのに取りかかるというところになっております。土器の科学分析と書いておりますけれども、基本的には土器に含まれている成分を調べることで土器の産地等がわかるということです。逆に言えば船原古墳から出土している土器はどこから来ているのかということがわかる調査も予定しております。調査のほかにも、調査するため込むばかりではいけませんので、公開事業ということもやっております。船原古墳につきまして、市民の方に広く知っていただくというところで、今年は企画展を予定しております。時期は11月から12月を予定しています。費用的なメイン事業になりますけれども、3番目が土地の購入事業ということになります。4月から1年間かけて交渉いたしましたして、3月ごろには土地を古賀市のものにするというところで考えております。将来を見据えたこととなります整備事業ということになりますけれども、これは塩漬けにしておくという言い方をしますけれども、買ったままほっておくというのは非常に市民にとってむだというか余り良いことではございませんので、なるべく早く公開をいたしたい。ただし、本来の公園整備には、出土品の整理が終わって遺跡の価値を確定する期間というのを待つ必要がございます。ところが、その間5年ぐらい待っていると市民のほうにも悪いということがありますので、中間的にまず本体の整備ではなくて周辺の整備を行なって近くまで来て船原古墳を見ていただくというようなことが必要になろうかと思っております。そのためにその周辺整備の事業の計画とそれから設計を業者に委託するという事業がございます。というのが船原関係の主な事業ということになります。また、先ほど申し上げたとおり、開発に伴う事前審査事業、開発に伴う記録保存のための発掘調査事業ということがメインの仕事となってまいります。以上です。

(会 長) : ありがとうございます。歴史資料館事業計画と、文化財の事業計画について何かご質問ありましたら、どうぞ。

(委 員) : 今橋です。船原古墳に関する企画展と講演会の関係ですけれども、企画展が11月から12月に予定されていて、講演会と言うのはその最中というふうに理解しましたが、それでよろしいでしょうか。もう一つは講演会について、昨年度シンポジウムが開かれましたのでそこの関連をどういうふうに今回とらえられていくのでしょうか。講演会の場合には、ある意味では考古学に興味のある方は最新情報を知りたいという一つの動きはあると思うんですが、もう一つは、広く市民一般の方に船原古墳それから埋納坑の歴史的意義といいますか、全国的な意味を含めて、そういったものをどれだけより広めていくかというやっぱ両方あると思います。その辺はどのような形で、

今回の講演会を位置づけられているのちよっとお尋ねしたいと思います。

(会 長) : お願いします。

(事務局) : 講演会につきましては、今おっしゃっていただきましたとおり、企画展の関連事業ということで企画展の最中に実施することにしております。できれば土日で開催したいということで、講師の先生と日程を調整したいと考えております。内容の位置づけについてでございますけれども、こちらまだ検討中ですが、講師の先生には先ほどお話し出ておりました1月31日に行いましたシンポジウムのコーディネーターにきていただいていた先生かパネリストで来ていただいた先生ということで考えておまして、船原古墳の重要性、位置づけについても全体的なところからお話をいただくということで考えております。

(委 員) : 興味あるものにとっては最新情報を深く深く知りたいというのが事実としてあるんですけども、古賀市としてやっぱりこれはどういった意義があるのかということを広く広めていくこと、市民の理解を得ることがまた次の発掘調査を含めてつながっていくと思うんですね。先ほどもちょっと出ましたが、小学校中学校を含めて全体にこれは何なの、どんな意味があるの、どれだけすごいものなのかということがまだ十分には伝わっていないような気がするんですね。僕はやはりもういっぺんそこら辺に向けるべき時が来てるんじゃないだろうかという感じがしますので、それも含めて御検討いただければと思います。

(会 長) : 検討していただきたいということですが、文化財の係長さんこの件について何か一言。

(事務局) : 企画展につきましては、基本的には、船原古墳のすごさを伝えるということを主眼に考えております。よそのものも借りてまいりますけれども、というのは船原古墳の出土品自体はやっと整理が端緒についたばかりですということで、ものは借りてきますが、それは代表していただくだけで、あくまでそこは船原古墳のすごさ、価値を伝えるためということを考えておりますし、講師の先生のお話につきましても一つは船原古墳ができた背景というものを理解するために船原古墳の価値についても語っていただこうかなと思いますけれども、そういった中身で考えております。

(会 長) : ということで、発掘の当事者でもありますので係長からのお話で納得ということでよろしいですかね。ほかございませんでしょうか。

(委 員) : 松下です。市民周知っていう方法もいろいろあるだろうと思いますが、新聞報道等は確かにやられたけど、やっぱり目に見える、聞ける、テレビ報道であつたら、NHKとまではいきませんが、報道機関の活用で継続というのめかなりの御苦勞もあると思いますけど、そういうところの活用とかいう周知の方法も、一つの方法じゃないかなと思いますけど、いかがでしょうか。

(会 長) : 歴史資料館の方がいかがですか。

(事務局) : 歴史資料館といたしましては、文化財係の方で、現在調査を進めていただいております九州歴史資料館と協議した上で、こういったことは市民にお伝えできるとか、新聞報道できるというふうに決まったことは展示していくという方向になっております。実際どこまでどの段階で公表するかということにつきましては、文化財係のほうでの

所管となっておりますので協議しながら行っていきたいと考えております。

(事務局) : TVにつきましては、実は良いプロデューサーというかディレクターの方がいらっしやいまして、ずっとかかわっていただいて、クローズアップ現代が1回、それからニュース番組の中での特集が3回ほど行われたように記憶しておりますが、残念なことに東京に異動になりましたので、また、そういった方を探していきたいと思えます。ラジオにつきましても、「古賀を歩こう」の関連でかなりRKBに御協力をいただきました。それについても考えていきたいと思えます。

(委員) : 著作権があるかもしれないですけど、NHKならアーカイブスで見られるかもしれませんが、古賀のなかで放映された分を流すのは難しいでしょうかね。それと一つソフト面なんですけど、市民劇団ダイコーンってありますよね。平成28年度の題材のなかに船原古墳のことが脚本に入っていたように思うんです。子どもが見そうな団体と一緒にアピールできたら、もっと子ども達私達にわかりやすく、触れる機会があるかなと思ったので、ぜひそういうところにそんなアピールもあってもいいのかなと思えました。以上です。

(事務局) : 著作権につきましてはかなり厳しいです。NHKにも伺いましたが、講座の中で流す程度は大丈夫ということですが、例えば不特定の方がいらっしやる市民ホール等で流すことはできませんということでした。後は工夫をしていくしかないと思えます。公開活用事業につきましては今後も続けてまいります。その中に、例えば、映像作成を織り込むとかということぐらいになってくるのかなとは思いますが、今後検討させていただきたいと思えます。

(会長) : 創意工夫されるということで了解をお願いします。ほかに何かございませんでしょうか。なければ第2号議案、平成28年度事業計画について、図書館事業、歴史資料館事業並びに、文化財事業計画についてご提案につきまして、御了承いただけますでしょうか。(はい)

### (3) その他

(会長) : 最後にその他ということで、何かございましたら事務局のほうをお願いします。

(事務局) : 時間も押してきておりますが皆様活発なご意見本当にありがとうございます。その他ということで、サンフレアこがからのお知らせを1枚入れさせていただいております。内容につきましては、実はリニューアルはしておりますけれども工事が途中な部分がございます、4月今もう開館しておりますけれども、5月になります、市民の方が入られる入口の工事に2日間の工程で2回ほど行うという必要が急遽出てまいりました。そのため臨時休館を予定しております。工事の期日の決定が急でございましたので、広報こがへのお知らせについても5月号ということになります。本来であれば5月26日を当初整理休館日としておりましたけれども、この日は開館いたしまして、5月17日を整理休館日に充てて、少しでも臨時休館の日を少なくしたいというふうには考えております。現在既に市のホームページや館内への掲示等しておりますが、入り口の通路の変更でございますとか図書返却ポストについても、適宜変更が生じておりますのでまた、ご迷惑をかけることとなっております。これにつきましてはもうご承知おきいただければと考えております。以上です。

(会 長) : ただいまの件につきまして御質問ございませんでしょうか。なければその他了承させていただきますが、ほかにはよろしいでしょうか。委員の方から何かございませんでしょうか。なければこれで協議事項を終わりたいと思います。任期中つたない議事運営で副会長加藤さんはじめ委員の方にご協力いただきましてありがとうございます。この会は、任期としましては4月30日までになりますけど、本日をもって発展的解消ということで、今後図書館運営あるいは歴史資料館についてますます市民のために貢献されることを期待しましてこの会を終わりたいと思います。どうもありがとうございました。(拍手)

(事務局) : 松田会長、議事進行ありがとうございます。委員の皆様、貴重なご意見等ありがとうございます。平成21年度から始まりました古賀市複合文化施設運営協議会は、今回が最後の開催となりました。委員の皆様方には、平成26年度27年度と、2年間大変お世話になりました。これまで数々の協議をいただき、大変ありがとうございました。最後に、閉会の言葉を教育部長清水よりいたします。

## 5 閉会のことば

(事務局) : すでに会長さんから良いお話をいただいた後で恐縮でございますけれども、閉会の言葉とさせていただきますと思いますが、私も最初にこの会に参加させていただいて、そしてこの最後の会になったわけですが、大変、活発なご協議であったなっというふう感じておりました、実は図書館や歴史資料館の事業については、工夫を凝らされてとても良いものだなっというふうに自画自賛しておりましたけれども、そのアイデアとか、ネタ元がこの協議会にあったんだと今日知ることができました。先日、私はまた別のウォーキングの集まりでございます「古賀を歩こう」の実行委員会、最初に参加いたしまして、最後というふうになったわけですが、この協議会でまた、将来に向けて、いろんな活動をやっというふうな未来志向型の会でございます、この会でも未来皆さんの御助言をいただけるような雰囲気を感じさせていただきましたので、今後とも楽しみにしていきたいというふうに思っております。私ども文化課というふうになってまいりましたけれども、市民の皆さんの好奇心や探究心を満足していただけるように応えられる事業展開を行っていきたく思っておりますし、また、子どもさんの想像力を豊かにできるような、そういった取組を今後もやっていきたいと思っておりますので、かわらぬご意見とか御協力をいただければというふうに思っております、今後ともとにかく皆さんよろしくお願いいたします。これで閉会の言葉とさせていただきますと思います。どうもありがとうございました。